

からつと  
ピックアップ唐桑人 千葉慎次郎



# 仮設住宅の仕掛け人

## 小原木小住宅

**支援を呼び込むため  
小原木をひとつにするため  
足を動かし続ける男は  
真冬の空の花咲か爺さん**

夏に小原木小学校（仮設）住宅に顔を出すと、必ずと言つていいほど、数人の住民が仲良くベンチに腰掛ける光景が眼に入る。その内の一人は、お客様が見えたと立ち上がり、まず声をかけてくれる。この親睦会（仮設住宅の自治会）会長、千葉慎次郎さんだ。

きるだけ足を運ぶようにした。社会福祉協議会から支援団体リストをもらってきて、炊き出し依頼を出した。さらに、「閉まつたままの談話室じゃ意味がない」として談話室を開放したことで、支援がさらにやすくなかった。お茶会やカラオケ大会が開かれることとなる。「結局ここにはさ、高齢者が多いから。で、開かれる」となる。ただ、開かれるだけ部屋の外に出したいんだけに、日中には自然と談話室の前のベンチに住民が集まるようになった。

### イベントは負担？

そんな慎次郎さんにも不安や躊躇が付きまとつ。「（催し物は）住民のみんなに、負担をかけているのかもしれない」実際、イベントに対し住民から「こんなことしなくていいんでねえか」という声があがつたことも。みんなを集めて、「みんなが（催し物は）いらねえつんなら、もうやらねえよ」とまで問うた。

彼はイベントを開く際は走り回つていろんな人に相談するようになつた。小原木の夏祭りを



企画したときは、学校や警察、お寺にまで相談に行つた。「今のお寺にお祭りをやつていいのか」という亡くなつた方への配慮だった。そうやつて、いろんな人に後押ししてもらつた。

また、彼には陰の相棒がいた。上があると小原木中学校がある。故に中学校のことを「上」と呼ぶことがある。小学校住宅より3

が彼を支え続けた。

### 上と下

小原木小学校から少し丘を上ると小原木中学校がある。上があると小原木中学校がある。

### 真冬の花火

年明けに、大沢で「真冬の花火」を上げる計画が立てられた。夏に「ここで花火できたらいいね」と慎次郎さんと耕一さんが冗談交じりに話していたことが、外部からの支援で現実のものとなつたのだ。そして、その花火の打ち合わせをキッカケにして、上と下の役員が共同で会合を開くこととなつた。初めてのことだつた。「おかげ様で今は両者の関係は碎けてきたよ。自分がやるうとしてきたことは、上とか下

を生んだのかもしれない。「上（中学校住宅）の人と下（小学校住宅）の人との溝を埋めたかった」実は慎次郎さんにとって、小原木夏祭りの本当の目的はここにあつた。

慎次郎さんは、イベントのチラシなどを共有することで、上と下の情報格差をなくす努力はしたが、上（中学校住宅）が親睦会を結成するまでは連絡系統もなく、もどかしい状態が続いた。

### 最後に何かできれば

仕事で船に乗つていた慎次郎さんは、唐桑を離れることが多くなつたため、地域のために何かするという機会もなかつた。『（人生の）最後に何かできればと思ってね。目立たなくていいから。一番大変な時期に会長をやれてよかつたんでねえか。後は高台移転に向けて、みんなでまとまっていければいい。キレイでなく当たり前のこと』。結局人間がまとまつてなきや。

春には、今まで支援に来てくれた皆さんを呼んで、一緒に花見でもすっぺし。小学校には桜があつからね』

慎次郎さんの任期は3月まで。しかし、彼が培つてきたながらりは終わらない。

力月あとに、小原木中学校（仮設）住宅は開設された。

当初、両者の関係はぎくしゃくしていたという。元は同じ避難所にいた人たち。しかし、3ヶ月先に（小学校住宅住民が）避難所を抜けたことが、意識の溝

難していた。しかし、大沢地区の災害対策本部の総務を担当した。そのため、避難所にやつてくる外からのボランティアの対応役だった。そこで生まれたつながりが、後に大きく影響することとなり、後に大きく影響することとなりた。

### 支援の受け皿が必要

震災直後、小原木中学校に避難していた慎次郎さんは、大沢地区の災害対策本部の総務を担当した。そのため、避難所にやつてくる外からのボランティアの対応役だった。そこで生まれたつながりが、後に大きく影響することとなりた。

### 自分の足で動かなきや

その後、慎次郎さんは積極的に動き出す。ネットワークを駆使して、小原木小住宅にボランティアや復興イベントを積極的に呼び込んだ。「待つてたって（支援）入つてこない。自分の足で動かなきや」イベント招致のため、他で開催されるイベントにはで

きつかりやろう、と呼びかけたのも彼だった。

「ボランティアとのつながりがあつたため、会長に推されたんだよな。最初は渋ったよ。でも、外部からの支援の受け皿が（仮設に）いつからね。物資を持つきても、誰もいなければ対応できない。『とりあえず（物資を）そこに置いていい』って言うだけじゃボランティアに失礼だろ」昼夜問わずに、設には珍しい木造住宅、さらに規模が小さかつたこと、しかも仮設されたこと、などなどの要因がコミュニケーションを円満にした。しかしこれだけではない。その陰には、会長慎次郎さんの奔走の日々がありた。

一番初めに親睦会の会長を選出

した。入居開始の5月20日から1ヶ月も経たない6月11日のことだ。

小原木小住宅はその後も独

自の手法で自治を盛り上げてい

く。そして、ボランティアにも「家に帰ってきたようだ」とうな

らせる暖かい雰囲気を創り上げた。ここは運がよかつたと言える。

入居時期が早かつたこと、住宅

成されたこと、などなどの要因

がコミュニケーションを円満にした。しか

しそれだけではない。その陰には、

会長慎次郎さんの奔走の日々が

あつたため、会長に推されたんだよな。最初は渋ったよ。でも、外部からの支援の受け皿が（仮設に）いつからね。物資を持つきても、誰もいなければ対応できない。『とりあえず（物資を）そこに置いていい』って言うだけじゃボランティアに失礼だろ』昼夜問わずに、設には珍しい木造住宅、さらに規模が小さかつたこと、しかも仮設されたこと、などなどの要因がコミュニケーションを円満にした。しかしこれだけではない。その陰には、会長慎次郎さんの奔走の日々がありた。

入居時期が早かつたこと、住宅

成されたこと、などなどの要因

がコミュニケーションを円満にした。しか

しそれだけではない。その陰には、

会長慎次郎さんの奔走の日々が

あつたため、会長に推されたんだよな。最初は渋ったよ。でも、外部からの支援の受け皿が（仮設に）いつからね。物資を持つきても、誰もいなければ対応できない。『とりあえず（物資を）そこに置いていい』って言うだけじゃボランティアに失礼だろ』昼夜問わずに、設には珍しい木造住宅、さらに規模が小さかつたこと、しかも仮設されたこと、など